

学校経営推進費 評価報告書（最終）

1. 事業計画の概要

学校名	大阪府立寝屋川高等学校 全日制の課程
取り組む課題	生徒の希望する進路の実現・生徒の学力の充実
評価指標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 希望進路実現率向上：現役国公立大学合格者数3年後に130人（平成28年度81人） ・ 大学センター試験における、全国平均に対する寝屋川高校生徒平均得点率を3年間で10%向上 ・ 生徒の授業満足度向上：強い肯定回答率50%以上（平成28年度 強い肯定35% 肯定52% 肯定以上計87%）
計画名	<p>キー・コンピテンシー能力育成を念頭に置いた授業力向上計画</p> <p>～真善美の寝屋川高校は、1200人1200通りの伸びと自己実現を支援します！～</p>

2. 事業目標及び本年度の取組み

学校経営計画の 中期的目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学力を伸ばす <ol style="list-style-type: none"> (1) 組織的な授業研究の推進「考える力の育成」「双方向の授業」 (2) 新たな教授方法や教材の開発、外部資源の活用 (3) 3年間の学習目標と計画の策定「基礎基本の徹底」 (4) 学力把握と分析による戦略的仕掛けと全体化 (5) テンミニッツの推進とタブレットの活用 (6) 講習、補習の計画的実施と内容の充実 (7) ICTを活用したわかりやすい授業づくり (8) 学習指導要領や大学入試制度改革に向けた準備と対策 2. 21世紀型能力の育成 <ol style="list-style-type: none"> (1) 主体的、能動的学習の確立「A.Lの進化」 (2) 部活動の積極的推進「個と集団の力」 (3) コミュニケーション能力の育成「プレゼンの機会設定」 (4) 生徒主体のHR活動や行事の企画運営「自主自立」 (5) 休まず続けることができる生徒の育成「粘り強い精神力」 (6) 豊かな人権感覚と国際感覚を育む体験学習の推進「多様性」 (7) 文化活動、読書活動の積極的推進 (8) 社会貢献やボランティア活動、各種コンテストの推奨
事業目標	<p>本校は現在キー・コンピテンシー能力育成を念頭に置いた授業改善を進め「真善美」*の学力向上をめざして取り組んでいるが、まだまだ生徒の伸びしろは十分ある。そこで、各HR教室に短焦点プロジェクターを設置し、ICTを活用した授業の充実を中心に更なる授業改善の取組みを進める。「視覚や聴覚に訴える」「板書時間の削減」等を実施することで、座学授業はもとより実験・実習を含むすべての授業で「生徒が自主的に取り組み活動する時間を確保する。それにより、様々な生徒主体の活動を取り入れる」ことで、生徒一人ひとりがそれぞれに「まだ見ぬ己（なりたい自分）」を発見し進路目標をしっかりと持つことにより、学習に対する意識を高め、進路実現（現役合格）をかなえることを支援する。</p> <p>* 真善美：寝屋川高校校訓 知性（認識能力）、意志（実戦能力）、感性（審美能力）のそれぞれに応じる超越的对象</p>
整備した 設備・物品	<p>短焦点プロジェクター（20台）</p> <p>（これに加え、学校の予算および後援会の支援により10台追加し、すべてのHR教室30室に設置し事業展開した。）</p>

<p>取組みの 主担・実施者</p>	<p>「授業力向上 PT」（校長・教頭・首席・指導教諭・教務主任・進路指導主事・情報主担・学力向上委員会・プロジェクター活用得意者・プロジェクター活用不得意者） * そのうち、ICT 活用に特化した PT として定時制も含めた「ICT 委員会」を教頭を主担に設置（教頭、管理情報室、研究開発室、学年から 1 名、定時制から 1 名、ICT に不慣れな者 1 名）実施者については全教職員</p>
<p>本年度の 取組内容</p>	<p>全教科の授業において活用できている。また、探求や HR 活動でもほとんどのクラスで活用した。 今年度より組織の再編を行い「ICT 活用委員会」と「学力向上 PT」が「学力向上推進委員会」と組織変更して、教員研修を年 4 回実施した。今年度は課題を『授業力向上』に絞り全教員を教科ごとに分け、パッケージ研修Ⅲの 2 年めを活用する形で行った。 特に ICT 活用に限った研修とするよりも、教員それぞれがどのような展開方法で実施することがより深い学びに繋がるのか等、各教科の教科指導の到達地点を設計させ「目標達成シート」を作成し、全教員による相互授業見学を 2 回実施。合わせて先進的取組みを行っている府内外の学校訪問を 3 校に対して実施。その訪問研修報告を全教員に対して ICT 機器を活用し、実施した。11 月には 1 年生全クラスを放課後残し、【国・英・理・地歴・数・芸家情体】の 6 教科の代表による研究授業研究協議を実施。1 月には「目標達成シート」の達成状況を各教科で記入して、今年度の取組みの振り返りを行った。年間全 6 回の研修を実施した。</p>
<p>成果の検証方法 と評価指標</p>	<p>①国公立大学「現役」合格者数：130 人（事業の最終目標・平成 30 年度 90 人） ②大学入試センター試験の全国平均に対する寝屋校生得点率 平成 28 年度比 10%向上（事業の最終目標・平成 28 年度 国語 108% 数学 112% 英語 112%・平成 31 年度 国語 114% 数学 109% 英語 113%） ③学校教育自己診断の「授業のわかりやすさ」「授業での生徒の活動機会」の項目：強い肯定 50%以上（事業の最終目標・平成 30 年度 強い肯定 31%、38%・肯定以上 87%、87%） ④授業アンケート全体・項目 5「教材の工夫」の向上（平成 30 年度 3.26・3.26）</p>
<p>自己評価</p>	<p>①国公立大学「現役」合格者数：130 人（平成 30 年度 90 人）⇒70 名……………（△） ②大学入試センター試験の全国平均に対する寝屋校生得点率 平成 28 年度比 10%向上（平成 28 年度 国語 108% 数学 112% 英語 112%⇒国語 111%、数学 107%、英語 113% …………… 国語（△）・数学（△）・英語（△） ③学校教育自己診断の「授業のわかりやすさ」「授業での生徒の活動機会」の項目：強い肯定 50%以上（平成 30 年度 強い肯定 31%、38%・肯定以上 87%、87%）⇒（強い肯定 32%、38%・肯定以上 86%、85%）……………（△） ④授業アンケート全体 3.26⇒3.37 項目 5「教材の工夫」 3.26⇒3.36 ……………（◎）</p>
<p>事業のまとめ</p>	<p>研究授業を通して、授業改善を進めるといふ文化・雰囲気を醸成できた。また研究授業と研究協議においてビジョンを共有しながら、その実現に向けて「学び合い、高め合う」教員集団の姿が見られた。校内では様々な教員の自主的な勉強会や研修が行われるようになってきている。ICT 機器の活用に端を発した取組みが、教員の資質向上に確実に繋がっていることを実感できた。 次年度に向けて、校内研修体制を作るため、年度当初の各教科の教育到達目標設定に始まり、11 月の研究授業・研究協議、年 2 度の相互授業見学、年度末の振り返りを寝屋川スタンダードとしていくことが重要である。今後、Wi-fi の環境整備も必要。</p>